

ロボカップジュニア 2026 千葉ノード大会プレゼンテーションポスター参考資料

審査員の着眼点と、過去 6 年間の審査員コメントを紹介します。

■審査員の着眼点

ロボカップジュニア 2021 千葉ノード大会でプレゼンテーションポスターの審査をご担当頂いた長谷川様より、審査員がどのようなところに注目して審査を行っているかの例を教えてくださいましたので、紹介します。

「説明がクリアか」

1. 意味が理解できない文が多くないか(多いと減点)
2. 行ったことの狙い・理由が述べられているか、それが妥当か
3. 行ったことの具体的な内容や使用した技術(センサなど)について適切に説明されているか

「見た目の印象」

1. 自分のロボットの写真があるか(ないと減点)
2. 芸術性があり、人目を惹くか
3. パッと見た時にロボット製作における頑張りが伝わるか(読みづらくないレベルでたくさん書いてあると好印象、芸術性とは相反する可能性あり)

「要点の分かりやすさ」

1. 行ったことについて具体的にイメージしやすいかどうか(説明用の図があると好印象)
2. 適切に区分けされているか
3. 大事なところ(キーワードなど)が見やすく強調されているか

■ 過去 6 年間の審査員コメント

ロボカップジュニア 2025 千葉ノード大会

審査員	コメント
竹間(昌) 様	プレゼンはチームのアピールです。 私達のチームは、私達のロボットは、こんなに凄いんだ！ ということを、遠慮せずにアピールしてください。 ただ、そのアピールが読む人に伝わらなければ意味がありません。だから、読む人のことを考えて作成して欲しいです。 まず、ポスターを読んでもらわなくてはなりません。そのためには、デザインや色遣い、文字の大きさ、コントラストなど「読みたい！」と思わせる構成が必要です。 また、限られた書面の中で、全体を伝える、詳細を伝える、という相反する課題があるのですが、粗さ、細かさのバランスの問題だと思います。 そして、読んでみて知りたいことが書いてないと、疑問が次々と沸いてしまうのですが、逆に「うん、なるほど」と思わせるポスターを高く評価しました。
中島 様	選手の皆さん、大会お疲れ様でした。各チームのプレゼンテーションポスターから、自分たちのロボットをアピールしたいという熱意がしっかり伝わってきました。 ロボット競技会というものは得てして、課題を解決するロボットを作り、その結果を競うことが中心になりがちです。しかし、結果と同じくらい重要なのがその過程です。 ロボット製作においてどんな点に拘ったか、どんな技術を身につけたか、どのような問題を解決したか、これらの過程は結果以上に貴重な学びの記録です。過程を振り返ることで、次により良いロボットを作るためのヒントを得られるだけでなく、自分自身の成長にもつながります。 せっかくこの大会では、プレゼンテーションポスターというロボット開発の過程を他人に分かりやすく説明して整理するための絶好の機会が用意されているので、積極的に活用してより良いロボットを作るスキルを磨いていきましょう。おまけに他のチームのポスターも展示されているのですから、新たな技術やアイデアを吸収するチャンスでもあります。 今回、自分のロボットの魅力を上手くポスターで表現できたチームも、時間やノウハウが足りずに思うようにいかなかったチームもいるかと思いますが、是非今後もこういった機会を積極的に活用して技術を磨いて欲しいと思います。
吉川 様	自分たちのつくったロボットを人に伝えるというのはとても難しいことであり、楽しいことです。みなさんも知らないことを知るとき、ワクワクしますよね。それと同じで、大会を観に来ている観客の方や、他のチームメンバーの人は、ポスターを見ることによってみなさんのロボットを知ることができ、ワクワクすると思います。そのワクワク感を共有できるようなポスターが良い評価を取っていると思います。 今回、惜しくもプレゼンテーション賞を取れなかったチームのみなさんに向けて、メッセージです。 ・基本情報を書きましょう。ポスターの対象は自分たちのことを知らない相手です。チーム名を書いていますか？ ロボットの構造、仕組みをわかりやすく説明していますか？

	・「読ませる」ことを意識しましょう。印刷したときに文字は小さすぎ・細すぎませんか？写真と文字のバランスは適切ですか？ ・簡潔に、わかりやすく書きましょう。内容は冗長ではないですか？専門用語とわかりやすさのバランスを取りましょう。 来年以降も良いロボットとポスターが見られることを期待しています！
--	--

ロボカップジュニア 2024 千葉ノード大会

審査員	コメント
竹間(直) 様	ポスターの得点は競技結果同様、総合優勝の評価となります。国内ではまだ競技結果だけでチームを評価していますが、国際大会ではポスターや TDP を評価に加えることが当然になっています。これは RoboCupJunior が教育プログラムであり、将来のリーダーを育てるという壮大な理想のもとに運営されているからです。自分の考えを伝えられなければリーダーになれません。自分のロボットがどんなセンサーをつけているか、それは何のためでどこにつけているか、どんな目的のためにコーディングしたのか、それらを文章化することはとても良いことです。また RoboCupJunior は教育プログラムなので、いっぱい失敗してください。失敗したら文章化して下さい。文章にできないとき、それは学びが少ないのです。 誰かの真似だけをしていませんか？ センサーをきちんと理解していないのでは？ どこが間違った分らないのでは？ そこに気がつけたらあなたは立派な科学者の卵です。周囲の大人は無理やり殻を割るのではなく、卵を孵化まで導いて欲しいと思います。
多田 様	大会に参加された皆様、大変お疲れ様でした。各チームの工夫や頑張り、苦勞がよく伝わってくるポスターの数々、とても興味深く拝見しました。今回、プレゼンテーション賞の審査において決め手となったのは、自分たちのチームやロボットについてのアピールポイントをしっかりと盛り込んだうえで、それらを素早く明確に伝えることができていたかという点だったかと思います。皆さんは、自分たちのロボットに詰め込んだこだわりや工夫について誰よりもよく知っているはずです。せっかく大変な苦勞をして作ったのですから、ポスターを見る人にもたくさんアピールをしてほしいと思います。そして、数々のアピールポイントを詰め込む上では、それらの多くの情報をいかにしてわかりやすくまとめられるかということも重要になってきます。決して簡単なことではありませんが、自分たちのやっていることが如何にすごいのかということを正しく知ってもらえるように「うまく見せる」という技術も身につけて、皆さんが今後さらに活躍していくことを心から願っています。

ロボカップジュニア 2023 千葉ノード大会

審査員	コメント
味香 様	程度に差はあれ、どのチームも「何をどう書けば良いの?」と思いながら書いたんだろうな、という苦勞が垣間見えました。その中でもうまく表現できたチームもあれば、十分ではないチームもありました。ルールには書いてほしいことこそ羅列されていますが、正直なところ、これだけで作りなさいというのは難しいです。 というわけで、ちょっとしたアドバイスといえますか、トピックをお伝えします。迷ったらまず、「コンセプト」や「重く捉えた課題」など、チームとしての一番のテーマを考えてみてください。そしてそれを中心において、「そのための A をここに取り付けた」「B で対策した」など書き出していくと少しずつ完成形に近づいていけると思います。 また、見る側と書く側に知っていることに差があることも覚えておいてください。特に RCJ などではポスターを見る側は、「ルールはうっすら分かるけれども、どこが大変かわからない」という人の方が多いですし、そういう体の人が審査しています。ですので、例えば競技者"のみ"が知っている共通の理解(例えばみんなが苦勞するポイント)とかは、「みんなわかるしいいか」といって書かないと全く伝わらないこともあるので、明記しておいたほうが良いでしょう。 あとは、RCJ の過去のポスターや、RCJ に直接の参考にはなりませんが、プロが書いている実物を見ても手です。一部の駅に張ってあるポスターや、学校の掲示物などは、見やすい体裁や、情報・セクションの粒度などで参考になる部分も多いはず。自分の中高時代では保健室や図書室に大きなポスターが貼ってあったのですが、今もあるのでしょうか? 思いつく限りで RCJ で求められているものに近いのが、あれをもう少しだけ細かく書いたものです。 これからも手探りしながら、色々試しながら、是非がんばってください。
中島 様	選手の皆さん、大会お疲れ様でした。今回、審査員として皆さんのプレゼンテーションポスターを審査させて頂きましたが、非常に熱意の伝わる良いポスターが多く、読んでいて楽しかったです。簡単に感じたこととしては、自分のアピールしたい面は良く書けているチームが多かった反面、読み手のことを考えられているチームが少なかった印象があります。例えば、説明が足りなかったり、ロボットの写真が少ない、もしくは無いチームがいくつかありました。説明を読む人の立場に立って説明やレイアウトを考えるということ意識すれば、より良いポスターが作れると思いました。 私が選手だった時はロボットにかかりきりで中々ポスターに取り組む時間が無かったので、きちんとしたポスターを仕上げてきた皆さんの努力がよくわかります。ポスターなどを使って相手に自分の製作物をアピールするという機会は今後沢山あると思うので、ロボットだけに留まらず、こういった能力も鍛えてほしいと思います。

ロボカップジュニア 2022 千葉ノード大会

審査員	コメント
湯口 様	審査員の湯口です。選手の皆さん、大会お疲れさまでした。昨年に引き続き PDF のみでの提出になり、慣れない選手たちもいたかと思いますが、そのような中でも自慢のロボットを頑張って説明しようとする気持ちが伝わってきました。ロボットの写真やロボット構成の説明を頑張ってくれたチームが多かった一方で、そのロボットやその構成が各競技での課題や難しさに対して、どのように乗り越えようと頑張ったかを説明してくれたチームは少ないように感じました。一般的にロボットは世の中の様々な課題を解決するために存在するものでもあると思うので、ぜひそのような視点でも自慢のロボットを説明してみると、頑張りがポスターを通じてよく伝わるとと思います。
横山 様	みなさんのプレゼン資料をととても楽しく見させていただきました。 私自身、千葉ノード OB ということもあり、自分もこんなポスターを作ったなあと懐かしい気持ちになりました。さて、全体的な講評ですが、ロボット全体や特徴的な部分をうまく紹介できているスライドが多く感心しました。面白そうな機構や個性的な自作センサーを搭載したロボットなど、プレゼン資料を見るだけでワクワクしました。当日は現地で見学できなかったのが本当に残念です。一方で、使った技術、部品の紹介、プログラムの記載のみというプレゼン資料も多かったように思います。資料を見てくれる人は、「その技術、部品はロボットにどう生かされているのか」、「そのプログラムにはどんな工夫があるのか」などを知りたいのです。「あなたのロボットを初めて見るひとが、どんなことを質問してくるだろうか」ということを意識してみると、もっと良いプレゼン資料になるかもしれません。 私は「ういるへるむ」のプレゼン資料に高い評価をつけました。ロボットの全体、注目してほしい部分や工夫点をわかりやすく伝える良いプレゼン資料だったと思います。特に使われている技術、部品、プログラムの選定理由や、それによる効果がよくまとめられているのが良いです。また、資料中の重要単語が赤くハイライトされて目立つようになっているのもポスターとしてグッドポイントです。

ロボカップジュニア 2021 千葉ノード大会

審査員	コメント
長谷川 様	選手の皆さん、大会お疲れ様でした。今回、新型コロナウイルスの影響で変則的な大会となり、皆さん大変だったと思うのですが、その中でも頑張って準備してくれていることがプレゼンテーションポスターから伝わってきて、読んでいてとても嬉しくなりました。一方で、その頑張りがポスターで詳しく説明されていないケースが時々あり、非常にもったいなく感じました。ロボットを作っていると、知らず知らずの内にたくさんの技術が身についているものなので、それに気付いて忘れないようにする機会として、大会を活用してもらえたら嬉しいです。
下川 様	選手の皆さん、慣れない環境の中での千葉ノード大会お疲れ様でした。今回のプレゼンテーションポスターも個性溢れる作品が多数あり、楽しませて頂いています。 今年のポスターは、紙面の割り振りが上手だったチームが特に印象的でした。自分達が行っていることを分かりやすく、簡単にまとめられていたと思います。 自分達にとっては当たり前のことでも、他の人から見ると凄いことだ、ということもあります。プレゼンテーションポスターでは、自分達がやっていることを是非たくさん紹介して下さい。

ロボカップジュニア 2020 千葉ノード大会

審査員	コメント
澁谷 様	たくさんのチームのみなさんが、それぞれの想いをポスターにまとめ、壁一面に張り出してくれました。 その様子はまるで、お祭りの楽しい出店のようでした。今回、一軒一軒の“お店”をじっくり拝見して回りました。 ポスターによるプレゼンテーションは、書き手と読み手のコミュニケーションです。日常会話では一方的に自分の言いたいことだけ発言しても上手なコミュニケーションにはなりません。それはプレゼンテーションにおいても同じです。 その場に書き手がいなくても声に出さない会話が成立するポスターがいくつもありました。とても素晴らしいことと思います。 みなさんも自分たちのものとは異なったさまざまな表現のポスターとの会話から新しい気づきや発見が得られたのではないのでしょうか。